

マーケット概況（2023年1月）

1月の債券相場は、日銀の更なる政策修正に対する思惑から売り先行で始まり、債券先物3月限は前月末比12銭安の145円34銭で取引を開始した。10年債入札を波乱なく通過し、日銀が連日臨時オペ及び指値オペをオファーしたことで下げ渋る場面もあったが、日銀の金融政策修正論がくすぶるなか共通担保資金供給オペが実施されなかったことや、12月米国CPIへの警戒感から軟調推移となった。12日に日銀が金融政策決定会合で大規模な金融緩和に伴う副作用を点検するとの報道を受けて債券相場は下げ足を速め、13日には債券先物3月限は2014年以来3月以来の144円15銭まで下落し、10年369回債の利回りは2015年6月以来の0.545%を付けた。また、同日に2年444回債は2015年2月以来の0.055%、5年155回債は2013年5月以来の0.400%、20年182回債は2014年6月以来の1.450%をそれぞれ記録した。しかし、18日の日銀金融政策決定会合で政策の現状維持と共通担保資金供給オペの拡充が決定されたことで切り返し、10年369回債の利回りは0.360%まで急低下し、債券先物3月限は147円74銭まで上昇した。その後は40年債入札を順調に通過したものの、1月東京都都区部コアCPIが4.3%上昇と市場予想を上回ったことで伸び悩み、結局10年369回債は0.490%で取引を終了した。

<短国市場>

3M金利はYCC変動幅拡大後水準感が定まらず、月前半の入札は-0.10%台に上昇し、セカンダリー市場では-0.12%~-0.13%で推移した。13日の3M1132回債入札は利上げ等政策変更を意識した待避的な買いが入り、最高落札利回りは-0.11%台着地と堅調で、セカンダリー市場では-0.18%台まで低下した。月後半の入札は-0.14%台で消化され、-0.17%台で推移し終えた。6M1130回債は4.5兆円に発行増額となったが最高落札利回りは-0.0685%と前場実勢を下回る好調な結果となり、セカンダリー市場では売り物が出難く-0.115%まで金利低下した。1Y金利は政策変更を意識し月前半は-0.02%台で推移した。1Y1133回債入札は-0.03%台となったが、現状維持を受け最終的に-0.07%台まで低下し終えた。

<一般債市場>

10年地方債は前月比2.0bpタイト化し国債カーブ+27.0bp、5年地方債は前月比同水準の同+12.0bpで条件決定した。10年地方債はタイト化した但し利率は前月比大幅に上昇し無難に消化された。既発債は、中期ゾーンは安心感が漂っていたものの、一部に政策変更の思惑があったことや、10年近辺の国債金利の歪みが解消されず居所が掴み難いことから長期ゾーンは警戒感が強かった。社債は、厳しい起債環境が継続し起債銘柄数は前年同月比25.0%減少したが、発行額は4,760億円と三井住友フィナンシャルグループの大型起債もあり微減に留まった。SDGs債関連では、発行体として初めて日産自動車サステナビリティボンドを起債し、旺盛な投資需要を集めた。

◎ 主要債券月間四本値

銘柄	始値	高値	安値	最終出来値
#369	0.500(5日)	0.360(18日)	0.545(13日)	0.490(31日)
#368	0.420(4日)	0.120(24日)	0.460(4日)	0.195(31日)
#358	0.460(4日)	0.270(23日)	0.530(13日)	0.410(31日)
#154-#155(5Y)	0.215(4日)	0.160(23日)	0.400(13日)	0.185(31日)
#182-#183(20Y)	1.295(4日)	1.255(23日)	1.450(13日)	1.375(31日)
#1125-#1130 TDB(6M)	-0.065(6日)	-0.065(6日)	-0.060(6日)	-0.060(6日)
#1127-#1135 TDB(3M)	-0.130(5日)	-0.185(13日)	-0.115(5日)	-0.178(27日)